

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



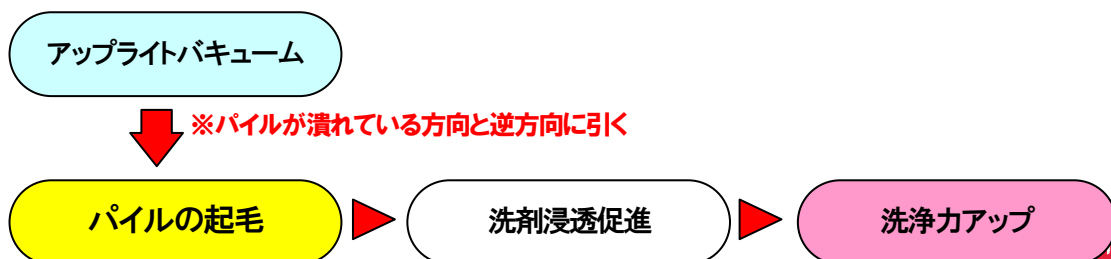
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

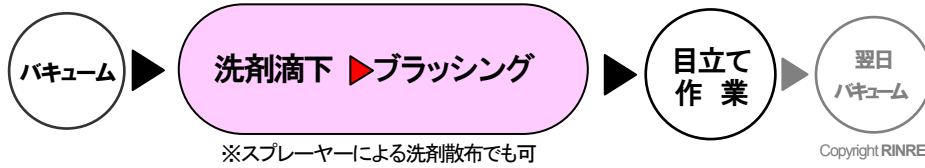
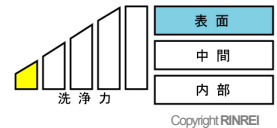
パイルが潰れたままの状態でも洗浄を行っても、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



3 シャンピング (カプセルブラシ) 方式



作業効率: 150 m²/1時間・1名
 使用洗剤: ボンネットカプセルクリーナー
 使用機材: ・カーペットポリッシャー
 ・カーペット用ブラシ
 ※パイルに応じて先割れか
 ストレートブラシを選択
 ・目立てブラシ

- [長所]**
- 水の使用量が少なく、短時間で乾燥する。
 - 使用機材もわずかで、作業も簡単に行える。
 - コストを安く抑えることができる。
 - ウィックバック発生時のボカシや獣道のスポット洗浄に適している。
- [短所]**
- ただ単に汚れを押し込んでいる為、この方法のみを用いているとカーペットの傷みが早くなる。
 - この方式を繰り返していると洗剤分の残留により再汚染が促進することがある。
 - 数ヶ月に一回はエクストラクション方式により残留洗剤の回収が必要になる。

(メンテナンスポイント)

カーペットの表面の汚れのみを除去する事に特化したクリーニング方式で、簡単に作業できる方式です。
 歩行量の多い所の汚れのボカシやウィックバックが発生した部分のボカシなどに適しています。
 シャンピングポリッシャーを用い、洗剤を滴下しながらブラッシングする方法で、カプセル洗剤を使用しブラシで十分に泡立てながら洗浄するのがポイントです。汚水回収を行わないので、洗剤滴下量を抑えながら洗浄し、翌日は必ずアップライト型でバキュームをする必要があります。
 洗浄後に手で触ってみて、多少湿っている程度が適切な洗剤滴下量になります。洗剤を多量に使用するよりも、
 ブラシ洗浄の回数を2~3パスと増やす洗浄が効果的です。特にウィックバックのボカシは、濡らし過ぎは厳禁なので、注意が必要です。洗剤の標準散布量は 55mL / m²(10倍希釈液) になります。
 洗浄作業終了後、目立てブラシを用いてパイルの目立てを行っておくことで、乾燥を早める効果があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ペロア等	毛足長い サキノニ一等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールアップ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	●	×	/	/	●	○
ウルトン	●	×	/	/	●	○
タフテッド	●	▲	●	○	●	○
タイルカーペット	●	▲	●	○	●	○
コードカーペット	/	/	/	○	/	/
電着(人工芝など)	●	▲	/	/	/	/
ニードルパンチ※	○ パイルの無いカーペット					

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可